



スマイルサポート



No. 4 令和6年10月30日発行

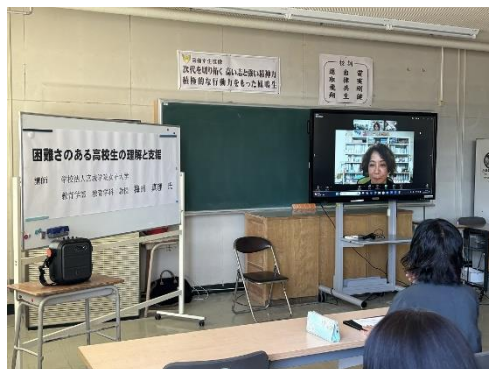
県北地区高等学校特別支援チーム研修会を開催しました

9月12日(木)、大館鳳鳴高等学校で、県北地区高等学校特別支援チーム研修会を開催しました。研修内容や参加者の感想を紹介します。

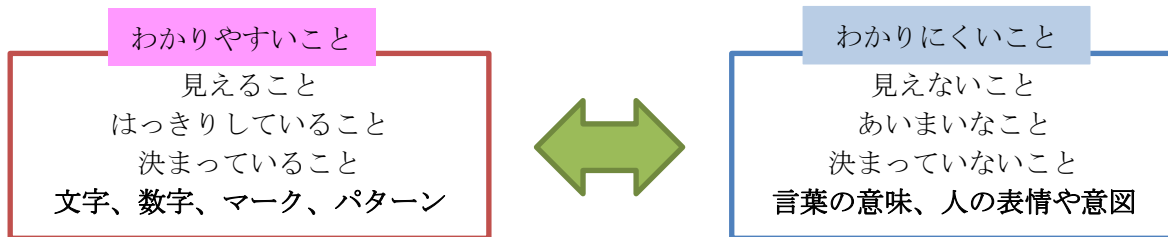
講演『困難さのある高校生の理解と対応』

講師：学校法人宮城学院女子大学
教育学部 教育学科 教授 梅田 真理 氏

発達障害のある生徒の特性について具体的な事例を交えて紹介していただき、障害のある生徒に対する支援と配慮について理解を深めることができた講演でした。



1、自閉スペクトラム症(ASD)の人のものの見方の特徴



2、ADHD(注意欠陥・多動症)のある子どもの特徴

不注意

- ・見落としやうっかりミスが多い。
- ・注意集中が維持できない。
- ・課題や活動を順序立てて行えない。
- ・物をなくすことが多い。

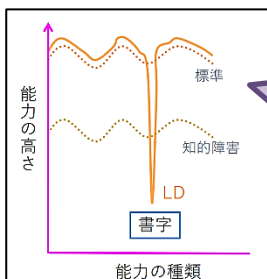
多動・衝動性

- ・よく手や足をそわそわ動かしたり、トントン叩いたりする。
- ・質問が終わる前に出し抜けて答え始めてしまう
- ・他人を妨害したり、邪魔したりする。

～ADHDのある子どもの「つらさ」～

- ①幼少期から多くの失敗を経験する。ex. 不注意や軽率さ→厳しい叱責
- ②他者の承認を得られないことに傷つく。ex. 「何をやってもうまくいかない」「認められない」
- ③焦りと怒りが増す。ex. 不適応行動が増える→叱責→悪循環

3、学習障害(LD)のある子どもの特徴



困難なこと、できないことが限られているため、努力不足と捉えられ、気づかれにくい。

～LDのある子どもの「つらさ」～

- ・分からない、できない、失敗が多い。
- ・なぜできないのか分からない。
- ・やる気がない、努力不足と判断されがち。



基礎的な練習を繰り返すを行うことを要求され、さらに自信、意欲を失う

「やった！できた！」を大切に

【大切にしたいこと】「認める、ほめる、居場所を作る」

- ・できたことは認める（他の失敗をしても）
- ・役割を与える（ほめることにつながるように）
- ・ほめるときはみんなの前で、注意は個人的に
- ・起こした行為を叱る（人格を否定しない）



自立に向けて

そばに「先生」がいなくなったら
…どうする？

●正しい自己理解の大切さ

*自分の特徴を知る

〈得意・不得意を正しく理解する〉

- ・自分のよいところ、得意な部分を知る
 - ・弱いところ、不得意な部分を知る
- 人と比べてではなく、
自分なりの特徴として・・・



●自立に向けて育てたい力

- ①「社会（家族…etc）にとって必要な人間である」という意識をもつこと
→自己有用感
- ②自分の特徴を理解し、周囲の資源や援助をうまく利用していく能力を身に付ける



自尊感情を高める

～参加者の感想～



困難さを抱えている生徒の自立に向けて、高校という立場は自己有用感を得る機会を設けやすい最後のチャンスなのでは？との思いを強めました。係・委員会活動を任意に設定しやすいという高校の特性を生かして、生徒の自尊心を高めたいです。

色々な生徒の顔を思い浮かべながら話を聞いていました。気になる生徒が何につまずいているのか、まずはノートを作ってみようと思います。また、ほめる、認めることの大切さを改めて感じました。明日から実践していきたいと思います。

実践発表 『特別な支援を必要とする生徒への校内支援』

国際情報学院高等学校 飯塚史子先生から自校の取組について実践発表をしていただきました。実践事例の発表を通して、高等学校での支援体制の実際や、切れ目のない支援の大切さを学ぶことができました。日々の実践において試行錯誤している部分についても具体的にお話をいただき貴重な機会となりました。ありがとうございました。



センター的機能をご活用ください

自校（園）に特別な支援が必要なお子さんが在籍する場合には、ぜひ本校のセンター的機能を積極的にご活用ください。

- ・就学先や進路先に関する相談
- ・特性に応じた学習や療育に関する相談
- ・ケースに応じたアセスメントの実施
- ・職員、保護者向け研修会のお手伝い
- ・ケース検討会での助言
- ・お子さんや保護者との面談への参加

地域支援担当【問い合わせ先】

比内支援学校 教諭（兼）教育専門監 藤田久美子
特別支援教育コーディネーター 市川千恵子
TEL 0186-55-2131 FAX0186-55-2132

